

鰯

〔古名錄五十六〕波江○中
河魚

正誤、大和本草ニ倭俗饅ノ字ヲハエトヨム、萬葉集ニカケリ、本草啓蒙ニモハエトヨム、萬葉集ニ饅ト出ルヨシ記セルハ、俱ニ杜撰也、萬葉集中ニ饅ノ字ヲハエト訓タル事ナシ、萬葉集第六ニ饅珠第七ニ饅玉第十一ニ饅具之ト觀タリ、

〔重修本草綱目啓蒙二十九〕鱗魚 饅萬葉ハエハイ京シロバエ同上ハヤ江戸一名參

魚便覽

白鱗 同上

參條魚正字

鰯同上、繁

流水ニ多シ、湖中ニモアリ、形香魚ニ似テ短ク、鱗麤ク色白シ、背ハ淡黒微青、ハスニ比スレバ口

小クシテ腹濶ク、腹下ノ鰭長シ、小ナル者ハ河水緩流ノ處ニ群游ス、大ナルモノハ湍水ヲ上ル、長サ四五寸、腹ニ鱗アリ、即鬪魚之雌也、兒童等蠅ガシラト云、小鉤ヲ用ヒテコレヲ釣ル、四時俱ニアリ、腸ヲ去リテ煮食フ、味美ニシテ肉ニ刺ナシ、一種ヤナギバエアリ、一名サゴヒ、和州ムギツキ、防州形相似テ狭ク、脇ニ一黒條アリ、集解ニ說クトコロ、此魚ニヨク的セリ、

〔魚鑑上〕はゑ 俗にいふはや、○中近江湖中、伏見小倉下總印幡沼多く產す、形このしろに似て、色白く、鱗こまかに鱗赭色なり、又やなぎはやあり、即綱目の鱗魚なり、狀はやより小さく、頭尾仰昂し、柳葉に似たり、瀦水に多く生ず、又もろこおひかわなど稱するもの、皆この類なり、

〔尾張名所圖會後編五〕名產筏鮎 同所○北木曾川にあり、白はえのちいさきが、初冬より早春まで、寒水をいとひて、水の淀みあるひは船筏の下にあつまり居て奔流を凌ぎ、又鵜鴨等の害を避